

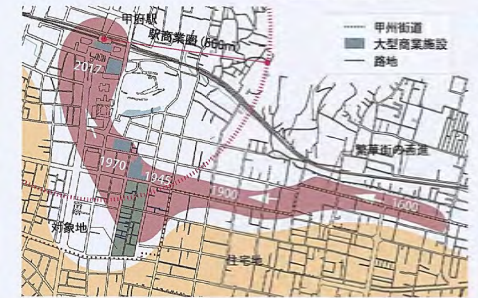
縦横無尽

敷地内に“みち”を引き込み、ある種の公共用地を創出する。そのような開発が高度経済成長期に市民により自発的に行われ、集積した地区がある。本計画は、空洞化しているこの地区の“みち”沿いに共同を促す機能を挿入し、周辺空地と連続させることで、かつて“みち”/空間を介して生まれた人と人の繋がりや文脈を、街区規模で継承し、展開する試みである。

01 Background

甲府の共有する文化：“無尽”と“みち”

甲府には、かつてより“無尽”というコミュニティのかたちが存在する。“無尽”は、個人による融資システムというその本来の機能を失いつつも、人々のつながりの文化として継承されてきている。そして、“無尽”が空間化したひとつのタイプが“みち”である。現在でも“みち”ごとの商店会組織の結束は強い。



02 Site

空洞化が進むかつての商業中心地

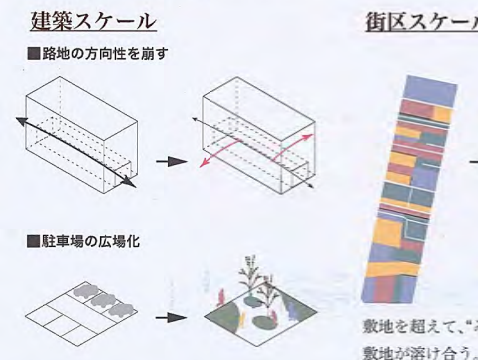
対象地は、高度経済成長期の中心繁華街である。敷地に私道を通し、その“みち”沿いに店を並べる開発が流行、集積し、回遊性の高い、計画無き特異な都市空間を形成した。しかし現在では、繁華街の中心は駅前に移動したため、風俗営業店が台頭し、空洞化している。特に昼間はほとんど利用されていない。



03 Diagram

縦横無尽に展開する“みち”空間

商業や公共機能が集中する駅圏に対して、対象地には駅圏の利用者と外側の住宅地に住む人の小さな共通の活動の場を埋め込む。低未利用状態の駐車場を広場として、街区内を走る“みち”空間と連続させ、街区全体で commons を構築する。



04 Process & Management

commons の計画プロセスと管理運営方法

